

6 一般地域のガイドライン

6 一般地域のガイドライン

01 本ガイドラインでのエリア区分について

景観には地域ごとの特長があり、商業地ではにぎわい、住宅地では安らぎなど、それぞれの地域にふさわしい配慮が必要です。このため、屋外広告物の掲出状況に応じて区内を6つのエリアに区分し、配慮事項や推奨色等のガイドラインを定めます。

幹線道路沿道エリア P.38 ~	駅周辺エリア P.40 ~	商店街エリア P.42 ~
景観構造図との対応 ・ 幹線道路景観軸 ・ 街道景観軸 (上記のうち景観形成重点地区を除く)	景観構造図との対応 ・ 商店街景観ゾーンのうち、駅に近接する地域 (上記のうち景観形成重点地区を除く)	景観構造図との対応 ・ 商店街景観ゾーン (上記のうち景観形成重点地区を除く)
工業地エリア P.44 ~	住宅地エリア P.46 ~	河川沿いエリア P.48 ~
景観構造図との対応 ※ ・ 工場・住工共存景観ゾーン (上記のうち景観形成重点地区を除く)	景観構造図との対応 ・ 住宅地景観ゾーン ・ 農地・屋敷林景観ゾーン ・ 職・住・学共存景観ゾーン (上記のうち景観形成重点地区を除く)	景観構造図との対応 ・ 水辺景観軸 (上記のうち景観形成重点地区を除く)

※周辺に立地する建築物の過半以上が住居系建築物の場合は「住宅地エリア」のガイドラインに沿って計画してください。

板橋区の景観構造図



02 幹線道路沿道エリア

現況の屋外広告物の掲出状況

幹線道路沿い (環状8号線、環状7号線など)	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者向けよりも車両向けの広告物が多く、内容が限定されているため、混乱した印象は少ないといえます。 自動車ディーラーの多くが白地や箱文字など洗練されたデザインを基本としており、これが他業種にも波及して通りの印象を良くしています。 交差点付近に派手な看板が集積しており、景観阻害だけでなく安全面でも危惧されます。
街道沿い (川越街道、中山道など)	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺を通過するため、車両向けと歩行者向けの両方が表示されており、派手な広告物も多く見られます。 屋上広告等に派手な色彩を用いたものやスカイラインから突出する形状のものがあり、街並みの連続性を阻害しているものも見られます。 交差点付近に派手な看板が集積し、景観阻害だけでなく安全面でも危惧されます。

現況の屋外広告物景観



低層部に屋外広告物、街路樹上の中高層部は街並みの基調色、頂部は連続するスカイラインとなっている川越街道沿道



信号や標識に影響する屋外広告物が少ない川越街道沿道



建物のイメージに合う統一感のある屋外広告物



連続するスカイラインの形成に配慮した屋外広告物



屋外広告物の地色に周辺の建物と共通する落ち着いた色彩が採用されており街並みの基調色が感じられる環状八号線沿道

屋外広告物による景観形成の方向性

街並みの連続性ともてなしの心が感じられる品格ある沿道景観の形成

屋外広告物による景観形成の考え方

幹線道路を行き交う走行車や通行者への交通安全に配慮し、街並みの連続性が感じられる品格ある沿道景観を形成します。

にぎわいの中にも品格が感じられる低層部

低層部では、歩行者からの視点やスケールに配慮して過剰な大きさの屋外広告物を避け、周辺の街の特性を踏まえた品格が感じられる沿道景観を形成します。

街並みのまとまりやスカイラインを保全する高層部

屋上や建物頂部に広告物を設置する場合は、連続性が感じられるスカイラインを形成するため、建物と一体的なデザインや見え方となるよう工夫し、周辺の街並みとの調和に配慮します。

幹線道路沿道エリアにおける屋外広告物の配慮基準

チェックリスト		check
全区域共通の 推奨基準	本書 P.13 ~ P.17「効果的な屋外広告物をつくるポイント」を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.18 ~ P.21「種類別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.22 ~ P.29「要素別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.30 ~ P.31「地域別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
景観計画による 配慮事項	本書 P.32「全区共通の基本方針」を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.32「一般地域における配慮事項」を守ります。	<input type="checkbox"/>
エリア区分別の 推奨基準	屋外広告物は、沿道の街並みやスカイラインとの調和に配慮した突出感のない規模や形状とし、建築物と一体的な色彩やデザインとします。	<input type="checkbox"/>
	屋外広告物は、低層部では歩行者スケールの規模や掲出位置とし、中高層部では、建物壁面の色彩や表情を活かす表示とします。	<input type="checkbox"/>
	窓面広告物（外側・内側）の表示は行わず、とくに開口部を覆うような表現は避けます。	<input type="checkbox"/>
	屋外広告物に光源を用いる場合は、過度に点滅する光源（光源の動き、色の変化のあるものを含む）や派手な照明は避け、交通安全に配慮します。	<input type="checkbox"/>
	地色の色彩は、下表に示す推奨する色彩の範囲とします。	<input type="checkbox"/>

屋外広告物の地色に推奨する色彩の範囲

誘導の強さのイメージ	低層部
弱 高層部の屋外広告物の地色は高彩度色の使用を避けます。	周辺や建物と調和する色彩とします。
	高層部
	赤色や黄色などの鮮やかな色彩を避けた範囲とします。（推奨する色彩例参照）

地色に推奨する色彩の範囲の例

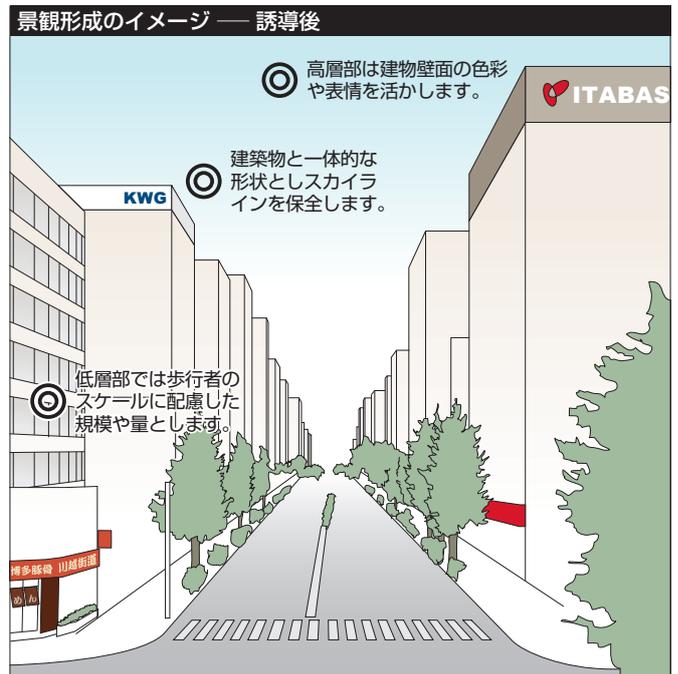
高層部		
7.5R3.0/6.0 [07-30L]	10R4.0/6.0 [09-40L]	2.5YR5.0/6.0 [12-50L]
10YR7.0/6.0 [19-70L]	2.5Y7.0/6.0 [22-70L]	2.5Y8.0/6.0 [22-80L]
2.5GY5.0/6.0 [32-50L]	2.5G3.0/4.0 [42-30H]	5G3.0/6.0 [45-30L]
5BG5.0/4.0 [55-50H]	2.5PB3.0/4.0 [72-30H]	5PB3.0/6.0
N9.0 [N-90]	N6.0 [N-60]	N3.0 [N-30]

地色：全体の印象に影響を与える面積の大きい色彩のことで、一つの広告物の中で、その表示面の 1/3 を超える色彩とします。

各色相で最高彩度の概ね 2/3 よりも鮮やかさを抑えた色彩を中心に選出しています。

屋外広告物による景観形成のイメージ

幹線道路沿道エリアにおける屋外広告物による景観形成のイメージです。



03 駅周辺エリア

現況の屋外広告物の掲出状況

<p>主要駅前の商業集積地（成増駅、板橋駅、大山駅など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 新しい商業ビルなどで、テナント同士の屋外広告物の大きさや色彩を揃えるなどすっきりとした外観となるよう工夫したのも見られ、駅前景観の印象を良くしています。 • 一方で全般に広告物が多く、1建物あたり平均で12面以上もの広告物が掲出されている地区もあります。 • 壁面や窓面を覆うように掲出された広告物が、建築物の基調色を見えにくくしています。 • 中小規模の広告物が無秩序に大量に掲出されていることで、情報の価値がなくなっている面があります。 • 歩道に設置されたものも多く、歩行者や自転車の通行の妨げとなっているものもあります。
----------------------------------	--

現況の屋外広告物景観



テナントの屋外広告物の大きさを揃えた新しい商業ビル



テナントの広告物を計画的に配置した大山駅前の商業ビル



壁面の表情を活かした箱文字がスタイリッシュな店舗



節度ある屋外広告物の掲出により街並みの基調色が感じられ秩序が保たれている板橋駅前ロータリー周辺



屋外広告物の大きさや位置などに秩序がない成増駅前の現況

屋外広告物による景観形成の方向性

地域の玄関口として、もてなしや心地よさが感じられる駅前景観の形成

屋外広告物による景観形成の考え方

地域の玄関口として街の顔となる駅周辺では、来訪者へのもてなしや心地よさが感じられる秩序ある景観を形成します。

にぎわいの中にも心地よい秩序が感じられる低層部

低層部では、来訪者に心地よい情報提供を行うため、情報が過剰にならないようにし、色数を抑えたり、掲出位置や大きさを揃えるなど、すっきりとした屋外広告物の表示となるよう工夫します。

街並みの基調色を感じさせる高層部

屋外広告物によるにぎわいの演出は低層部で行うことが基本です。

高層部は、建築本来の表情を活かし、街並みの基調色が感じられるよう、屋外広告物は箱文字や地色の色を抑えた表現とするなど、建物と一体的なデザインや見え方となるように配慮します。

駅周辺エリアにおける屋外広告物の配慮基準

チェックリスト		check
全区域共通の 推奨基準	本書 P.13 ~ P.17「効果的な屋外広告物をつくるポイント」を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.18 ~ P.21「種類別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.22 ~ P.29「要素別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.30 ~ P.31「地域別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
景観計画による 配慮事項	本書 P.32「全区共通の基本方針」を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.32「一般地域における配慮事項」を守ります。	<input type="checkbox"/>
エリア区分別の 推奨基準	屋外広告物は、地域の玄関口として心地よい秩序が感じられるよう、規模や情報量を抑えるとともに、周辺店舗やテナントと協力して掲出位置や大きさ等を揃えます。	<input type="checkbox"/>
	屋外広告物は敷地内に掲出し、歩行者や自転車の快適な通行空間を確保します。	<input type="checkbox"/>
	窓面広告物（外側・内側）の表示は行わず、とくに開口部を覆うような表現は避けます。	<input type="checkbox"/>
	屋外広告物に光源を用いる場合は、過度に点滅する光源（光源の動き、色の変化のあるものを含む）や派手な照明は避けます。	<input type="checkbox"/>
	地色の色彩は、下表に示す推奨する色彩の範囲とします。	<input type="checkbox"/>

屋外広告物の地色に推奨する色彩の範囲

誘導の強さのイメージ	低層部
弱 高層部の屋外広告物の地色は高彩度色の使用を避けます。	周辺や建物と調和する色彩とします。
	高層部
	赤色や黄色などの鮮やかな色彩を避けた範囲とします。（推奨する色彩例参照）

地色に推奨する色彩の範囲の例

高層部		
7.5R3.0/6.0 [07-30L]	10R3.0/6.0 [09-30L]	2.5YR5.0/6.0 [12-50L]
7.5YR5.0/8.0 [17-50P]	10YR7.0/6.0 [19-70L]	5.0Y6.0/8.0 [25-60P]
7.5Y7.0/6.0 [27-70L]	2.5G3.0/4.0 [42-30H]	5BG3.0/6.0 [55-30L]
10B6.0/4.0 [69-60H]	2.5PB3.0/4.0 [72-30H]	5PB3.0/6.0
N9.0 [N-90]	N6.0 [N-60]	N3.0 [N-30]

地色：全体の印象に影響を与える面積の大きい色彩のことで、一つの広告物の中で、その表示面の 1/3 を超える色彩とします。

各色相で最高彩度の概ね 2/3 よりも鮮やかさを抑えた色彩を中心に選出しています。

屋外広告物による景観形成のイメージ

駅周辺エリアにおける屋外広告物による景観形成のイメージです。



04 商店街エリア

現況の屋外広告物の掲出状況

昔ながらの商店街 (板橋宿不動産通り、仲宿商店街など)	<ul style="list-style-type: none"> 昔ながらの中小の店舗が連続しており、ほっこりとさせる親しみやすい小規模な広告物が多く見られます。 一方で、一部のテナント等に壁面全面を覆う派手な広告物など街並みのスケールから逸脱するものも見られます。 マンション等への建物更新が進んでいますが、低層階にはしゃれた店舗などが入居するなど商店街としての連続性が確保され、昔ながらの個人商店から新しい店舗まで質の良い広告物が集積しています。
アーケード商店街 (ハッピーロード大山商店街など)	<ul style="list-style-type: none"> 商店街で大きさや位置を揃えたサイン看板が整備され、にぎわいの中にも秩序が感じられる景観が形成されています。 各店舗が表示する屋外広告物についても、アーケードにより限られた空間に掲出されるため、種類、規模、高さなどに共通性がありますが、一部の店舗で逸脱した位置や規模のものも見られます。 店舗の軒先に所狭しと陳列されたディスプレイが広告物の役割となって魅力的な賑わいを創出しています。

現況の屋外広告物景観



板橋らしい小さな商店が軒を連ねる昔ながらの板橋宿不動産通り商店街の風景



和風の看板や緑を活用した軒先の演出



規模や高さにも共通性があるアーケード内の屋外広告物



木材の看板やメッセージボード暖かい雰囲気の新しいカフェ



こだわりやもてなしが感じられる魅力的な屋外広告物

屋外広告物による景観形成の方向性

歩行者目線のにぎわいの連なりで、もてなしを伝える商店街景観の形成

屋外広告物による景観形成の考え方

板橋らしい魅力である小さな商店が軒を連ねる風景を継承し、歩行者目線のにぎわいが連なる商店街景観を形成します。

にぎわいの連続性を形成する低層部

低層部では、既存の商店街のスケールから逸脱する規模や色彩の屋外広告物を避け、ほっこりとさせる親しみやすいスケールの広告物が連続するよう掲出位置や大きさを揃え、まち全体で「もてなしの心」を表現します。

軒が連なる商店街のスケールを保全する背景としての高層部

マンション等の高層部での屋外広告物の掲出は必要最小限とし、できるだけ背景に融かせることで、低層部の軒が連なる商店街の風景を引き立てます。

商店街エリアにおける屋外広告物の配慮基準

チェックリスト		check
全区域共通の 推奨基準	本書 P.13 ~ P.17「効果的な屋外広告物をつくるポイント」を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.18 ~ P.21「種類別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.22 ~ P.29「要素別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.30 ~ P.31「地域別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
景観計画による 配慮事項	本書 P.32「全区共通の基本方針」を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.32「一般地域における配慮事項」を守ります。	<input type="checkbox"/>
エリア区分別の 推奨基準	屋外広告物は、低層部では隣接する店舗同士で掲出位置や大きさ等を揃えるなどにぎわいの連続性を創出し、高層部に掲出する場合は建築物と一体的な色彩やデザインとします。	<input type="checkbox"/>
	屋外広告物は敷地内に掲出し、歩行者や自転車の快適な通行空間を確保します。	<input type="checkbox"/>
	バナーフラッグ等を活用し、季節や催事の演出をするなど、地域全体で活気やにぎわいを演出します。	<input type="checkbox"/>
	個々の店舗等においても、地域性に配慮し、その街の雰囲気や魅力を高める屋外広告物を表示します。	<input type="checkbox"/>
	窓面広告物（外側・内側）の表示は行わず、とくに開口部を覆うような表現は避けます。	<input type="checkbox"/>
	屋外広告物に光源を用いる場合は、過度に点滅する光源（光源の動き、色の変化のあるものを含む）や派手な照明は避けます。	<input type="checkbox"/>
	地色の色彩は、下表に示す推奨する色彩の範囲とします。	<input type="checkbox"/>

屋外広告物の地色に推奨する色彩の範囲

誘導の強さのイメージ	低層部
弱	周辺や建物と調和する色彩とします。
	高層部
高層部の屋外広告物の地色は高彩度色の使用を避けます。	赤色や黄色などの鮮やかな色彩を避けた範囲とします。（推奨する色彩例参照）

地色に推奨する色彩の範囲の例

高層部	伝統的なイメージの色		
7.5R3.0/3.0 [07-30F]	2.5YR3.0/4.0 [12-30H]	2.5Y5.0/4.0 [22-50H]	色
5GY4.0/2.0 [35-40D]	5G3.0/2.0 [45-30D]	5PB3.0/2.0 [75-30D]	
2.5Y9.0/1.0 [22-90B]	2.5Y5.0/1.0 [22-50B]	10YR2.0/1.0 [19-20B]	
10R3.0/6.0 [09-30L]	2.5YR5.0/6.0 [12-50L]	2.5Y7.0/6.0 [22-70L]	
2.5GY5.0/6.0 [32-50L]	5G3.0/6.0 [45-30L]	5PB2.0/6.0 [75-20L]	
N9.0 [N-90]	N6.0 [N-60]	N3.0 [N-30]	

地色：全体の印象に影響を与える面積の大きい色彩のことで、一つの広告物の中で、その表示面の 1/3 を超える色彩とします。

各色相で最高彩度の概ね 2/3 よりも鮮やかさを抑えた色を中心に、上段 3 段には伝統的なイメージを持つ色も選出しています。

屋外広告物による景観形成のイメージ

商店街エリアにおける屋外広告物による景観形成のイメージです。



05 工業地エリア

現況の屋外広告物の掲出状況

区北部 (新河岸、舟渡、高島平など)	<ul style="list-style-type: none"> • 都市部の工業地らしく、シンプルな箱文字による企業サインが多く、CIカラーなども小面積で効果的に用いられています。 • 外構や植栽と一体的にデザインされた企業サインも見られ、洗練された印象を創出しています。 • 一方で、一部に規模を逸脱する巨大な屋上広告や壁面広告が設置され、遠景からも目立つ要素となっています。
区東部 (小豆沢、蓮沼、志村、前野町など)	<ul style="list-style-type: none"> • 工場、病院、商業施設、マンション、戸建住宅など多様な規模や用途の建物が複合的に立地していますが、全般に屋外広告物が少なく、掲出されているものも落ちつきが感じられる屋外広告物がほとんどです。 • 新しく立地した商業施設等では、屋外広告物の派手さを抑えたり、テナント同士で広告物の大きさや位置を揃えるなど配慮されており、周辺の景観形成を牽引しています。

現況の屋外広告物景観



壁面頂部にシンプルな箱文字のサインを表示した施設



建物と同じガラス素材を用いて外構や植栽と一体的にデザインされた企業サイン



多くの工業施設で採用されている箱文字の企業サイン



センスを感じさせるすっきりとしたエントランスサイン



金属の素材色をいかしたシンプルなエントランスサイン

屋外広告物による景観形成の方向性

先進性を感じさせる周辺と調和した工業地景観の形成

屋外広告物による景観形成の考え方

東京都内の工業地にふさわしい先進性を感じさせるデザインとし、周辺との調和にも配慮した工業地景観を形成します。

先進性や親しみやすさを感じさせる低層部

低層部では、周辺の住宅等に配慮し、素材色を活かしたり、緑を組み合わせるなど、環境への配慮を感じさせるものとし、威圧感のない親しみやすい大きさや色彩の屋外広告物とします。

眺望や市街地のまとまりを保全する高層部

屋上や建物頂部に広告物を設置する場合は、川沿い等の視点場からの眺望に配慮し、箱文字を採用するなど建物の外観全体がまとまって見えるようにします。

工業地エリアにおける屋外広告物の配慮基準

チェックリスト		check
全区域共通の推奨基準	本書 P.13 ~ P.17「効果的な屋外広告物をつくるポイント」を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.18 ~ P.21「種類別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.22 ~ P.29「要素別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.30 ~ P.31「地域別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
景観計画による配慮事項	本書 P.32「全区共通の基本方針」を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.32「一般地域における配慮事項」を守ります。	<input type="checkbox"/>
エリア区分別の推奨基準	屋外広告物は、周辺環境との調和に配慮し、突出感のない規模や形状とします。	<input type="checkbox"/>
	屋上や建物頂部に設置する場合は箱文字を採用するなど建築物と一体的な色彩やデザインとします。	<input type="checkbox"/>
	屋外広告物は、ガラスや金属などの素材色を活用した先進性を感じさせるデザインや植栽と組み合わせるなど環境への配慮が感じられるものとします。	<input type="checkbox"/>
	屋外広告物に光源を用いる場合は、過度に点滅する光源（光源の動き、色の変化のあるものを含む）や派手な照明は避けます。	<input type="checkbox"/>
	地色の色彩は、下表に示す推奨する色彩の範囲とします。	<input type="checkbox"/>

屋外広告物の地色に推奨する色彩の範囲

誘導の強さのイメージ	低層部			
弱 + 中	低層部の屋外広告物の地色は高彩度色の使用を避け、高層部の屋外広告物の地色は中彩度色に以下おさめます。			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>低層部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>赤色や黄色などの鮮やかな色彩を避けた範囲とします。(推奨する色彩例参照)</td> </tr> <tr> <th>高層部</th> </tr> <tr> <td>全ての色相で、中彩度以下の範囲とします。(推奨する色彩例参照)</td> </tr> </tbody> </table>	低層部	赤色や黄色などの鮮やかな色彩を避けた範囲とします。(推奨する色彩例参照)	高層部
低層部				
赤色や黄色などの鮮やかな色彩を避けた範囲とします。(推奨する色彩例参照)				
高層部				
全ての色相で、中彩度以下の範囲とします。(推奨する色彩例参照)				

地色に推奨する色彩の範囲の例

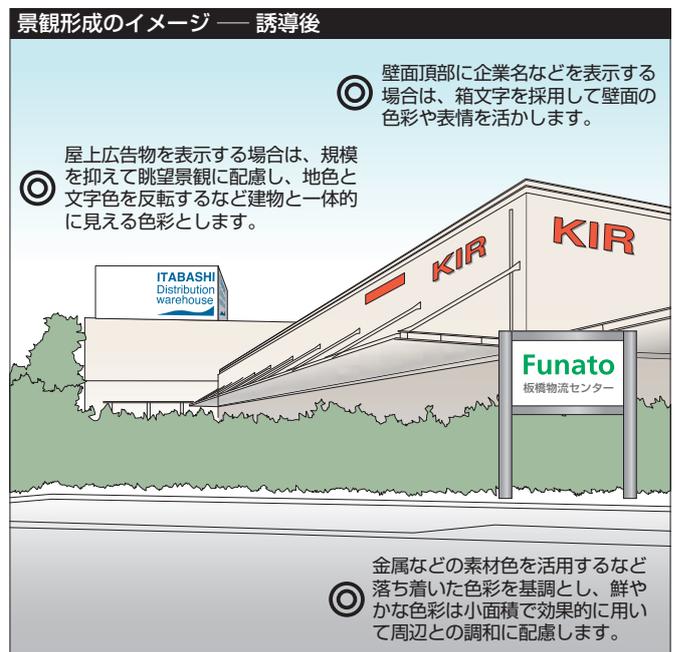
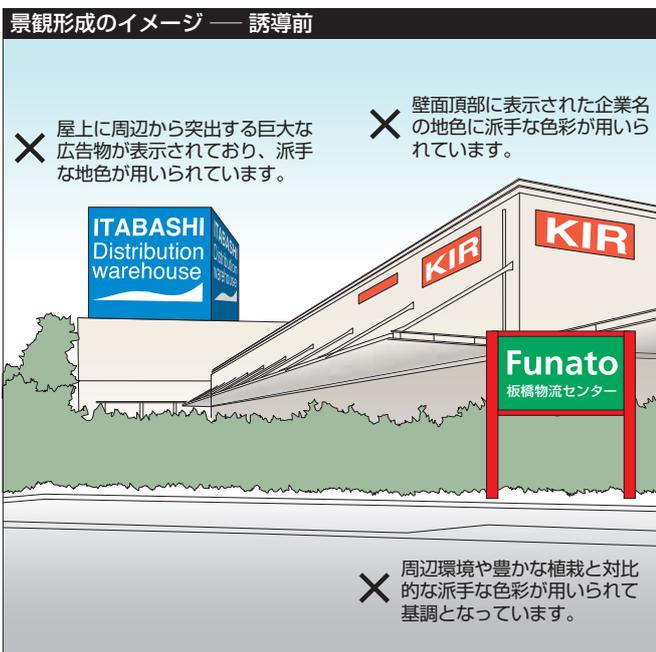
低層部		
高層部		
7.5YR7.0/6.0 [17-70L]	2.5Y8.0/6.0 [22-80L]	5R3.0/10.0 [05-30T]
7.5Y6.0/6.0 [27-60L]	7.5GY5.0/4.0 [37-50H]	5G3.0/6.0 [45-30L]
5G5.0/4.0 [45-50H]	5PB3.0/6.0	5PB2.0/6.0 [75-20L]
N9.5 [N-95]	N8.0 [N-80]	N4.0 [N-40]
N9.0 [N-90]	N6.0 [N-60]	N2.0 [N-20]

地色：全体の印象に影響を与える面積の大きい色彩のことで、一つの広告物の中で、その表示面の1/3を超える色彩とします。

各色相で最高彩度の概ね2/3よりも鮮やかさを抑えた色を中心に、工業地で用いられることの多い無彩色も選出しています。

屋外広告物による景観形成のイメージ

工業地エリアにおける屋外広告物による景観形成のイメージです。



06 住宅地エリア

現況の屋外広告物の掲出状況

戸建住宅等の低層住宅地	<ul style="list-style-type: none"> 住宅地では、屋外広告物の掲出自体が少なく、建物名称を示すサイン看板は落ち着いたものがほとんどです。 不動産の管理広告など、小さいながらも落ち着いた住宅街の中では、目立ちやすく突出感があるものも見られます。 住宅地に点在する時間貸駐車場で派手な色彩や光源が用いられており、周辺と対比的なものも見られます。
マンション等の中高層建築物	<ul style="list-style-type: none"> 建物入口のサイン等の多くは、素材色を活かす箱文字とするなど、建物や植栽に調和するものが用いられています。 一部の建物の頂部や塔屋等に建物名称等が表示されていますが、ほとんどが落ち着いた色彩や箱文字を採用しており、周辺に調和しています。 入居者募集広告など、一部に周辺と対比的で派手なものも見られます。

現況の屋外広告物景観



箱文字表現や落ち着いた色彩の屋外広告物を用いて木材の質感や豊かな緑が印象的な外観を創出した店舗



高島平団地のオープンスペースにデザインされたサイン



住宅地の雰囲気と対比的な色彩が用いられた時間貸し駐車場



すっきりとデザインされた公開空地に関する掲示



植栽に調和したマンションのエントランスサイン

屋外広告物による景観形成の方向性

暮らしにうるおいや安らぎが感じられる住宅地景観の形成

屋外広告物による景観形成の考え方

住宅地で屋外広告物を表示する場合は、緑と調和する落ち着いた色彩や素材とし、安らぎが感じられる景観を形成します。

緑との調和や安らぎが感じられる低層部

低層部では、連続する街路樹や庭木、ガーデニングなどの緑と調和する落ち着いた色彩や素材を活用した屋外広告物を基本とし、暖かさや安らぎが感じられる住宅地の雰囲気を守ります。

眺望や市街地のまとまりを保全する高層部

屋上や建物頂部に広告物を設置する場合は、起伏に富んだ板橋特有の土地形状による見え方に配慮し、箱文字を採用するなど建物と一体的に見えるようなデザインとし、周辺の街並みと調和するものとします。

住宅地エリアにおける屋外広告物の配慮基準

チェックリスト	check
全区域共通の推奨基準 本書 P.13 ~ P.17「効果的な屋外広告物をつくるポイント」を守ります。 本書 P.18 ~ P.21「種類別の配慮事項」の該当事項を守ります。 本書 P.22 ~ P.29「要素別の配慮事項」の該当事項を守ります。 本書 P.30 ~ P.31「地域別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
景観計画による配慮事項 本書 P.32「全区共通の基本方針」を守ります。 本書 P.32「一般地域における配慮事項」を守ります。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
エリア区分別の推奨基準 屋外広告物は、安らぎが感じられる住環境を阻害しないよう、規模や高さ等を抑えるとともに、周辺との調和に配慮した掲出位置や色彩とします。 屋上や建物頂部に設置する場合は箱文字を採用するなど建築物と一体的な色彩やデザインとします。 植栽と組み合わせるなど緑豊かな景観の創出に配慮します。 屋外広告物に光源を用いる場合は、過度に点滅する光源（光源の動き、色の変化のあるものを含む）や派手な照明を避け、安らぎが感じられる光量とし、深夜帯は消灯するなど住環境に配慮します。 地色の色彩は、下表に示す推奨する色彩の範囲とします。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

屋外広告物の地色に推奨する色彩の範囲

誘導の強さのイメージ	低層部
中 低層部・高層部ともに屋外広告物の地色は中彩度色以下におさめます。	全ての色相で、中彩度以下の範囲とします。（推奨する色彩例参照） 高層部 全ての色相で、中彩度以下の範囲とします。（推奨する色彩例参照）

地色に推奨する色彩の範囲の例

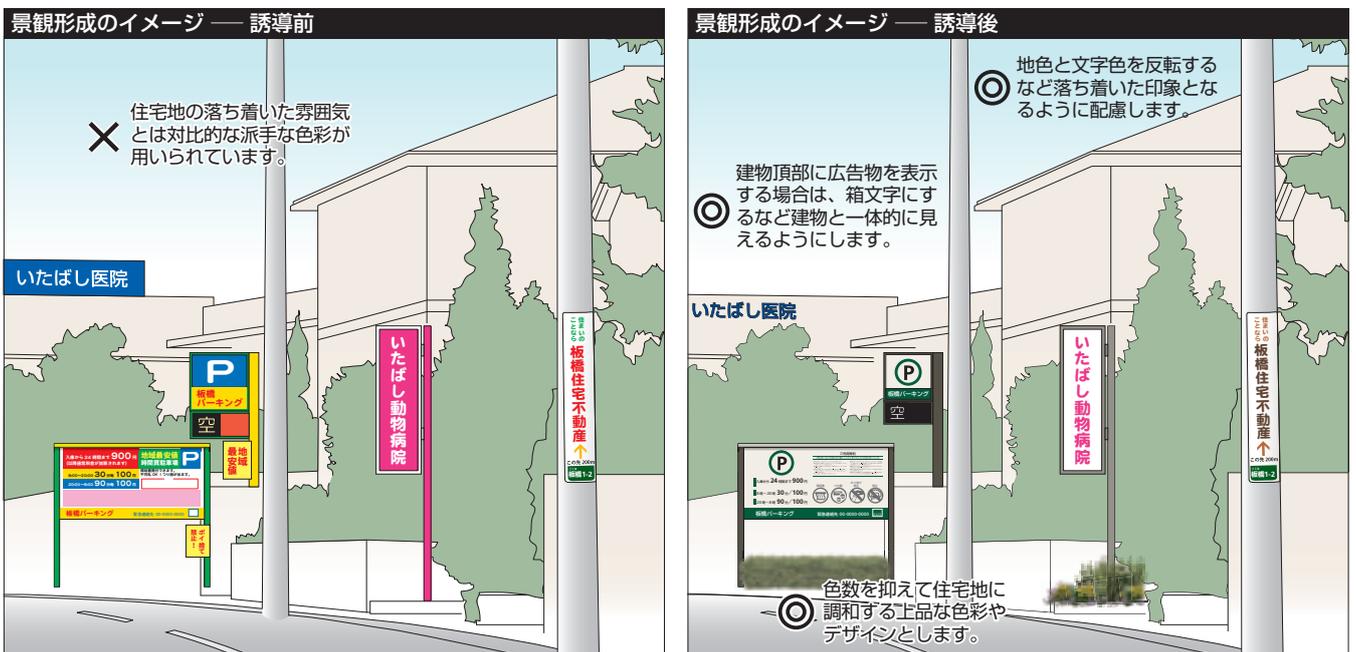
低層部・高層部		
10R4.0/4.0 [09-40H]	5.0YR4.0/4.0 [15-40H]	10YR7.0/6.0 [19-70L]
2.5Y7.0/6.0 [22-70L]	7.5Y5.0/4.0 [27-50H]	5GY5.0/4.0 [35-50H]
2.5G3.0/4.0 [42-30H]	5BG3.0/2.0 [55-30D]	2.5PB3.0/4.0 [72-30H]
10YR9.0/0.5 [19-90A]	10YR5.0/2.0 [19-50D]	10YR3.0/2.0 [19-30D]
2.5Y9.0/0.5 [22-90A]	2.5Y6.5/0.5 [22-65A]	10YR3.0/0.5 [19-30A]

地色：全体の印象に影響を与える面積の大きい色彩のことで、一つの広告物の中で、その表示面の 1/3 を超える色彩とします。

各色相で最高彩度の概ね 1/2 よりも鮮やかさを抑えた色を中心に、無彩色を避けた自然景観に調和しやすい色彩を選出しています。

屋外広告物による景観形成のイメージ

住宅地エリアにおける屋外広告物による景観形成のイメージです。



07 河川沿いエリア

現況の屋外広告物の掲出状況

荒川、新河岸川沿い	<ul style="list-style-type: none"> 橋詰などの視点場付近に、車両向けや新幹線に向けた巨大な屋外広告物が掲出されており、遊歩道を行き交う歩行者や自転車の視線からは規模が大きく、眺望景観を阻害しているものもあります。 工場の工場や倉庫の壁面広告や屋上広告が望見されますが、シンプルな箱文字を採用するなど一定の配慮が見られるものがほとんどです。
石神井川沿いなど (景観形成重点地区を除く)	<ul style="list-style-type: none"> 景観形成重点地区（石神井川軸地区）に位置していても、近隣地域の屋上広告物が桜並木の上に望まれ、景観資源の見え方に大きく影響しているものも見られます。 全般に屋外広告物が少なく、掲出されているものも地色を落ち着いた色彩とするなど周辺と対比的なものはあまり見られない一方で、橋詰などの目立ちやすい場所や時間貸し駐車場等に派手な色彩を多用したものも見られます。

現況の屋外広告物景観



工場や倉庫の多くが建物と共通性のある地色や箱文字を採用しまとまりのある景観が形成されている荒川沿いの工場地



荒川土手から見える工場のシンプルな企業サイン



荒川の橋詰付近で車両向けに表示された派手な屋外広告物



見通しがよく屋外広告物の掲出が少ない石神井川沿いの景観



落ち着いた地色が周辺の街並みに調和している石神井川沿いに表示された屋外広告物

屋外広告物による景観形成の方向性

水と緑が一体となった眺望景観の保全

屋外広告物による景観形成の考え方

河川沿いで屋外広告物を表示する場合は、水と緑が一体となった自然に融和する色彩や素材とし、眺望景観を保全します。

水と緑による豊かな景観を保全する低層部

低層部で屋外広告物を表示する場合は、過剰に存在感を誇示することは避け、河川沿いの自然に融和する色彩や素材を基調とし、緑化と組み合わせるなど豊かな自然景観の創出にも配慮します。

河川沿いからの眺望を保全する高層部

屋上や建物頂部に広告物を設置する場合は、川沿い等の視点場からの眺望に配慮し、箱文字を採用するなど建物の外観全体がまとまって見えるようにします。

河川沿いエリアにおける屋外広告物の配慮基準

チェックリスト		check
全区域共通の 推奨基準	本書 P.13 ~ P.17「効果的な屋外広告物をつくるポイント」を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.18 ~ P.21「種類別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.22 ~ P.29「要素別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.30 ~ P.31「地域別の配慮事項」の該当事項を守ります。	<input type="checkbox"/>
景観計画による 配慮事項	本書 P.32「全区共通の基本方針」を守ります。	<input type="checkbox"/>
	本書 P.32「一般地域における配慮事項」を守ります。	<input type="checkbox"/>
エリア区分別の 推奨基準	屋外広告物は、豊かな自然との調和に配慮し、突出感のない規模や形状とします。	<input type="checkbox"/>
	屋上や建物頂部に設置する場合は箱文字を採用するなど建築物と一体的な色彩やデザインとします。	<input type="checkbox"/>
	植栽と組み合わせるなど緑豊かな景観の創出に配慮します。	<input type="checkbox"/>
	屋外広告物に光源を用いる場合は、過度に点滅する光源（光源の動き、色の変化のあるものを含む）や派手な照明は避けます。	<input type="checkbox"/>
	地色の色彩は、下表に示す推奨する色彩の範囲とします。	<input type="checkbox"/>

屋外広告物の地色に推奨する色彩の範囲

誘導の強さのイメージ		低層部
弱 + 中	低層部の屋外広告物の地色は高彩度色の使用を避け、高層部の屋外広告物の地色は中彩度色以下におさめます。	赤色や黄色などの鮮やかな色彩を避けた範囲とします。（推奨する色彩例参照）
		高層部
		全ての色相で、中彩度以下の範囲とします。（推奨する色彩例参照）

地色に推奨する色彩の範囲の例

低層部		
高層部		
10R4.0/6.0 [09-40L]	7.5YR5.0/6.0 [17-50L]	7.5R3.0/6.0 [07-30L]
2.5Y7.0/6.0 [22-70L]	5GY5.0/4.0 [35-50H]	5G3.0/6.0 [45-30L]
5G5.0/4.0 [45-50H]	10BG6.0/4.0 [59-60H]	5PB3.0/6.0
2.5Y9.0/0.5 [22-90A]	2.5Y6.5/0.5 [22-65A]	10YR3.0/0.5 [19-30A]
N9.0 [N-90]	N6.0 [N-60]	N3.0 [N-30]

地色：全体の印象に影響を与える面積の大きい色彩のことで、一つの広告物の中で、その表示面の1/3を超える色彩とします。

各色相で最高彩度の概ね2/3よりも鮮やかさを抑えた色を中心に、自然景観に調和しやすい色彩を選出しています。

屋外広告物による景観形成のイメージ

河川沿いエリアにおける屋外広告物による景観形成のイメージです。

